

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～ 2014.04.19 vol.23

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆

配信停止をご希望の方は、お手数ですが
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

☆ごあいさつ☆

皆様、お変わりございませんか？

桜の花も終わり、新緑の美しい季節へと。
こここのころの初夏を思わせるような陽気に誘われて、
我が家の庭の椿の花に、蝶がやって来ています。

ひらひら舞う蝶は、私に今年も、
大好きなこの季節の風を運んでくれます…
ありがとう！

さて、昨日、今日と郡山、福島、会津若松に
紙芝居の活動に来ています。
福島県は、今がちょうど桜の花が見頃で、
道中お花見をしながら、活動しています。
なんて、ラッキー！なんて、ハッピーなんでしょう。

そんな幸せ気分にもまれながら
それでは、本日から第8話に入ります。

今回の「今を生きるスターリマンの物語」では、
私の故郷である茨城県にある、
常陸国一之宮 鹿島神宮の宮司の鹿島則良氏を
ご紹介させていただきます。

常陸国一之宮 鹿島神宮
<http://www.kashimajingu.jp/wp/>

最後まで、楽しんでいただけましたら嬉しいです。

☆第8話 日本建国から受け継ぐ日本復興再生の道を支える☆
常陸一之宮鹿島神宮 宮司 鹿島則良 氏

第1章 ～鹿島則良氏との出会い～

私たちは、2011年の7月より
東日本大震災で被災した子ども達に、
スターリマンの紙芝居をお贈りする活動を行っております。

この活動を始める前の2011年4月の終わり頃。
私たちが住む埼玉県さいたま市(大宮)の
武蔵一之宮 氷川神社の遠藤権禰宜さんから、
鹿島神宮に祀られている「要石」の作品を描くご提案を頂きました。

「要石」とは、地震を起すと言われている鯰(なまず)を
封じ込めるための地震抑えの石のことで、
鹿島神宮のある鹿嶋市も震災で大きな被害を受けました。

5月に入ってから、遠藤権禰宜さんより
川口の鎮守氷川神社の鈴木宮司さんをご紹介頂き、
そして、鈴木宮司さんの後輩である、
鹿島神宮の東権宮司さんと、鹿島宮司さん
にお会いできることになりました。

そして、2011年10月13日。
私たちは、鈴木宮司さんと奥様、
遠藤権禰宜さんと一緒に、
鹿島神宮にお参りさせて頂きました。

当日は、秋晴れの清々しい日でした。
太平洋に注ぐ茨城と千葉の県境を流れる
利根川の下流に位置する鹿島神宮は、
私が中学2年生の時の遠足で訪れた、
懐かしい思い出の地でもありました。

あの日見上げた大鳥居は、震災で倒壊してしまいました。
故郷の茨城沿岸部一帯における被害の大きさを痛感しました。

私たちは、本殿をご参拝させて頂いた後に、
木漏れ日の光が優しく輝いている参道を通り、
要石がお祀りされている鹿島の鎮守の杜の中へと。

静寂な時間に心洗われる御見所は、
さわさわ～さわさわ～と神々様の新風に、
身も心も包まれて行くのを感じました。

それから、鹿島則良宮司さん、東俊二郎権宮司さんに、
応接室にお招き頂き、ご面会頂きました。

被災地での紙芝居の活動のお話から始まり、
活動で訪れた東北各地の風景を描いた作品
「被災地の未来を輝かす心の原風景」をご覧頂きました。

第一作目である、岩手県の陸前高田市の
奇跡の一本松を描いた「夢をつなぐ命のきずな」をお観せすると、
有り難い感動のお言葉を頂いた後、
鹿島宮司さんから次のようなお話をお聞かせ頂きました。

ちょうど震災から一ヶ月後の4月11日の朝のこと、
鹿島灘の下津(おりつ)の浜を散歩していたご老人から、
海岸に大きなお札が流れ着いているのを見つけ、
これはと思って…と当神宮にご連絡を頂きました。
すぐに二人の神主が、お札をお迎えにまいりました。

お札を持ち帰ると、砂まみれ、油まみれで
真っ黒に汚れていた上に傷ついておりました。
綺麗に拭い、そして丁重に応接室の床の間に、
このようにお祀りしました。

と、私たちはそのお札を拝見させて頂きました。

鹿島宮司さんは、お札に
「諏訪大明神祈祷神璽」と書かれていたため、
長野県諏訪市にある諏訪大社にご連絡を取ると、
岩手県陸前高田市気仙町の今泉諏訪神社の
斎館のお札であることがわかりました。

しかし、あの大津波で荒狂う中を、
このような大きなお札が、それも震災よりちょうど一ヶ月後に
鹿島の灘に辿り着いたとは…!

それから、鹿島神宮に祀られている
「建御雷之男神(たてみかずちのおのかみ)」と
諏訪大社に祀られている
「建御名方神(たてみなかたのかみ)」の
「国譲り」のお話を教えて頂きました。

古事記によると、高天原の「天照大御神」は、弟の「須佐之男命」の子孫である「大国主神」が作り固めた地上の国は、天照大御神の子孫が治めるべき国であるとして、二度使者を送りましたが、返事がありませんでした。

そこで、三度目の使者として、高天原で最も力の強い神、鹿島神宮の大神の建御雷之男神を、地上に送りました。

出雲の国へ使者として赴いた建御雷之男神は、大國主命との国譲りの交渉の際、建御名方神と力競べを行った所、建御雷之男神が勝ち、国譲りが成就したのです。

これにより、日本建国の功神と言われている建御雷之男神は鹿島の大神様となり、敗れた建御名方神は、諏訪の地へお引きこもりに。

鹿島の神と諏訪の神との間には、このような深い縁がありました。

ですから、今回の震災で、陸前高田の諏訪大社のお礼が、鹿島の浜に、それも人々を救済する弥勒菩薩の弥勒の船が着くと言われている下津(おりつ)浜に流れ着いたことは、何か特別な意味を持つ事であったと感じております。

そして、この震災を通して、神々様は私たちに何をお伝えされているかを、しっかりと受け止めなければならないと考えております。

それを押し量り、伝えてゆくのが、神に仕える者の勤めと思っております。

このように鹿島宮司様は私たちにお話くださいました。

とても感慨深く、そして、私たちが、紙芝居の活動で陸前高田市にお伺い出来たのは、ただの偶然ではないように感じました。

こうして、宮司さん、権宮司さんから、震災に関連した一通りのお話を頂いた後、震災で御倒れになった大鳥居の創建にあたり、鹿島神宮の杜の大杉をお切りになったお話もお伺いさせていただきました。

大杉が大鳥居へとなる準備として、
二年間乾かすために、三日後には
山形県酒田市に運ばれてしまうとのことで、
是非、その杉を拝見させて頂きたいとお願いしました。

こうして、私たちは、大杉と出会うことになりました。

横たわっているその切られたばかりの大杉から、
力強く発せられる香り高いエネルギーに圧倒されて、
私と娘は、柵のあることも気づかずに、
何の迷いもなく大杉の前に入ってしまった。

切り口からほとばしる樹液を見て、胸が詰まってしまいました。
大杉の声が私の心の深いところに聴こえたように思いました。

「何千もの間、この鹿島の大神様をお守りするために、
鎮守の杜で大杉として、命を全うすることと思いきり参りましたが、
この度の命を受け入れたわが身は、大鳥居となって、
この国の人々の幸せをつなぐ身柱となって、参りましょう」と。

そんな、大杉の天命を覚悟する意志を感じた私は、
込み上げて来る大粒の涙が止まりませんでした。

はっと我に帰り、後ろを振り返ると、
宮司さん、権宮司さんをはじめ、夫も皆様も柵の外から、
私と娘を温かく守ってくださっておりました。

私は、この大杉の想いをお話に託して、皆様にお伝えしたいと、
その時、心に決めました。夫も私と同じ想いでした。

そして、はせがわは、この震災から
新たな日本の再生へと立ち上がる
鹿島の大神様の御魂を映す作品をイメージし、描きました。

こうして完成した作品、「幸せをつなぐ祈りのきずな」の朗読を、
ちょうどお伺いして50日後、震災の2011年の最後の月の
12月1日の月次祭に参列させられた氏子の皆様方にお聴き頂きました。

皆様から感動を頂き、2014年6月1日に執り行われる大鳥居竣工祭にて、
大鳥居建設にあたり、ご寄付頂いた皆様への御礼の記念品として、
「幸せをつなぐ祈りのきずな」の版画とお話をお渡し頂ける事となりました。

また、2014年の4月1日には、鹿島宮司さんのお計らいで、鹿島の大神様の荒魂がお祀られている奥宮にて、朗読公演をさせて頂きました。

「鹿島立ち」に象徴される「すべての始まりの地」である鹿島神宮の大神様の建御雷之男神の荒魂の奥宮から、東北ならびに、日本の復興再生のための想いが、更なるパワーとなって溢れてまいりました。

鹿島の大神様に導かれるように、大きなお役目を与えて頂き、これからもひとつひとつのご縁に感謝を忘れず、尚一層、活動に励んでまいりたいと思います。

「今を生きるスターリイマンの物語」

☆第8話 日本建国から受け継ぐ日本復興再生の道を支える☆
常陸一之宮鹿島神宮 宮司 鹿島則良 氏

第2章は、4月29日(火)配信予定です!

鹿島則良氏との出会いは、いかかでしたでしょうか?

鹿島の杜に流れる悠久の時は、
日の本の神々の歴史の回顧から始まり、
これからの日本のあるべき姿を感じる、
豊かな時間となってくれるでしょう。

是非、皆様も鹿島の神様が
力強く語りかけてくださる心のお声をお聴き
にお参り頂けたら幸いです。

さて、今回は第8話「今を生きるスターリイマンの物語」
第2章 鹿島則良氏の家族の原風景をお送り致します。

配信は、4月29日(火)となります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

来週は4月24日～28日まで、沖縄へ。

沖縄県教育委員会さん主催の講演会や
図書館さんでのイベント、
5月11日のコンサートのリハーサルなど
盛りだくさんです。

24日には、「今を生きるスターリマンの物語」
第9話にご紹介させて頂く予定の安田未知子氏に
インタビューをさせて頂く事になっております。

太陽の光がきらきら輝く大好きな沖縄にて、
また、スターリマンの活動を応援頂ける機会を頂きまして、
幸せのご縁がつながって、感謝感謝いっぱいです。

では皆様、素敵な一日一日をお過ごしくださいますように…。
最後までお読み頂きまして、ありがとうございました。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～ 2014.04.29 vol.24

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆

配信停止をご希望の方は、お手数ですが
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

☆ごあいさつ☆

あっという間に4月も下旬となりました。
皆様、お変わりございませんか？

私たちは、24日から昨日まで沖縄にて色々な活動をしてまいりました。

初日は、安田未知子先生にインタビューをさせていただくために
うるま市にある「いずみ苑」へ。

25日は、沖縄県教育委員会さん主催の
「子ども読書の日」記念フォーラムにて講演会と実演。

26日は、インタビューと5/11の朗読コンサートのリハーサル。

27日は、豊見城市立中央図書館にて、
親子さん向けの紙芝居ライブ&夢の紙芝居づくり。

最終日は、朗読コンサートの会場である
沖縄タイムスホールでリハーサル。

ほとんど曇り時々雨のお天気でしたが、
お会いするお一人お一人に温かく迎えて頂きまして、
心から感謝いっぱいの素晴らしい5日間でした。

滞在中、お世話になりました皆様、
本当にどうもありがとうございました！

さて、本日のメールマガジンは、
第8話の第2章である、鹿島則良氏の家族の原風景です。
是非、最後までお読み頂けましたら嬉しく思います。

☆第8話 日本建国から受け継ぐ日本復興再生の道を支える☆

常陸一之宮鹿島神宮 宮司 鹿島則良 氏

第2章 ～鹿島則良氏の家族の原風景～

Q1.ご出身を教えてください。

私は、明治41年生まれの父則幸と
大正6年生まれの母とし子の長男として、
昭和22年2月8日、静岡県熱海市で生まれました。
昭和14年、16年、19年生まれの姉3人の4人姉弟です。

私の家は、中臣の子孫で、大和朝廷の時代より、
代々鹿島神宮の神職の家として神に仕へ、
私は70代目になります。

父も神職をしていましたが、神社が国家神道という時代で、
大きな神社の神職さんは国家公務員でしたので、
辞令一本で、全国を飛び歩いていました。

祖父も曾祖父も鹿島神宮の宮司をしていましたが、
明治政府から命じられて、曾祖父の則文は
伊勢神宮の宮司になりました。

それが、鹿島家にとって良かったのかどうか？
伊勢神宮の宮司を断って、鹿島に居続けた方が
良かったのではないかと考えています。
ただ神社界にとっては良かったのではと思います。

お伊勢様に行かれると、宇治橋を渡って、
ちょっと西洋庭園みたいのがあって、手水をする前に、
小さな火除け橋がありますが、
以前はそこまで一般のお店が並んでいました。
曾祖父が宮司になってから、宇治橋の外に出したのです。

伊勢の皆さんからは、非常に評判が悪かったと聞かされていますが、
今になっては、宇治橋の中に、お店がないと言うことは、
お伊勢様にとって良い事かなと思います。

Q2.お父様のことを教えてください。

私の父は、宮城県にある塩釜神社をはじめに、北海道神宮(当時は札幌神社)、を経て静岡県熱海市にある伊豆山神社の宮司になりました。

父方の祖父は、鹿島神宮の宮司をしていましたが、早く亡くなりました。

父親は国家公務員で歩いている時に、伊豆山神社で終戦になって、鹿島に戻ってこられなくなりました。鹿島には他の神職さんがいましたからね。

それで、茨城の神職と言うことで、水戸市にある常磐神社に転勤になります。常磐神社は、徳川光圀公、徳川斉昭公をお祀りしている神社です。

私は、熱海の伊豆山神社で生まれて、小学校5年まで育ちました。その後は、水戸の常磐神社で高3まで育ちました。

父親は非常に学問が好きでした。神社の運営と学問はまた別のことで、運営に関してはあまり得意ではなかった様に思います。

学者としては、古文書をすらすら読むなど私には到底及びません。

Q3.お母様のことを教えてください。

私の母親は、私が小学校6年の時に亡くなりました。非常に身体が弱かったので、それでも無理して私のことを生んだのだらうと思います。

私の記憶の中では、非常に優しい母親でしたが、半分ぐらい入院していましたね。

千葉県成田近くに、藤原師賢卿をお祀りしている小御門神社があります。

今は別格官幣社(国に功績を挙げた人物を祀る神社)になっていますが、母はそこをお守りしていた庄屋の澤田家の娘でした。

明治になって、母方の曾祖父は小御門神社を創建し、お守りしていました。祖父は香取神宮の宮司になります。

日本書記では、国譲りについて、鹿島の神様と香取の神様は一緒に出雲へ行かれたと書かれています。

私の祖父たちは、鹿島の宮司と香取の宮司だったわけです。

Q4. 子供時代で印象に残っていることを教えてください。

父親はいろんな人と交流するのが好きで、また、父親は、よく私を連れて歩きました。

私は小5まで、熱海で育ちました。

当時熱海には文化人が多く暮らしており、父に連れられてよく、第一回の文化勲章を受けられた、国文学者で歌人の佐佐木信綱先生、また徳富蘇峰先生のお宅にお伺いしていました。

父親の隣に座り、先生のお話をいつも聞かされていました。

徳富蘇峰先生は、昨年大河ドラマの「八重の桜」に出てこられ、「私が知っている方が大河ドラマに出て来た」と、驚きました。

今思うと、今のお年寄りはそんなことはしてくれませんが、昔の年寄りは小さな子供にも話しをしてくれました。

父親は、信綱先生に和歌を教えて頂いておりました。先生は、父親が先生に叱られるのを、子どもには見せないようにと、指導をする時だけは、「君はあちらに行っていなさい」と父親の権威を無くさないように配慮をする方でした。

徳富蘇峰先生は、身体が丈夫でしたら、戦犯になっていた方ですけれども、

90歳を過ぎていて、病気をしており、GHQも拘束はしませんでした、監視の目はいつも光っていたようでした。

ですから、父親が先生をお訪ねする時は、子ども連れの方が都合が良かったのかも知れません。

先生は、「こんな状況で、日本はこれから先、どんなになってしまうのだろう」といつも心配をされていました。

それと、伊豆山神社では、神職が父しかないものですから、父親が出張しますと、母親が「朝の日供祭をやって来なさい」と言うことで、私が奉仕しなければならず、神職の作法は小学生のころから、仕込まれました。

Q5.子供の頃の夢は何でしたか？

子供の頃から交通関係が好きだったので、夢は故郷茨城県の交通機関で仕事をしたいと、早稲田大学を卒業した後、12年間、関東鉄道に勤めました。

当時の関東鉄道は、鹿島開発とつくば学園都市という、2つの大きな開発地域を持っておりまして、私は、つくば学園都市の方を担当になり、バスの路線とか、つくばエクスプレスの駅をどこへ持っていくか等の仕事をしていました。

Q6.現在の神職になったきっかけは？

私が関東鉄道に勤めていた時、常磐神社に奉仕していた父が病気になって、私は神職になることを決意しました。30歳の時です。

会社勤務の仕事は、一代で出来るわけですが、私の家みたいに70代もの祖先が築いて来たことを、私が止めて良いのかと。それは出来ないと思いました。

やはり、一代で作ったものよりも、代々継いで来たものを受け継ぐことが大事だと思い、神職の資格を取ることにしました。

國學院大学を出たのと同じ資格を取らないと、
大きな神社の神職にはなれません。
会社に勤めながら、一か月のお休みをとって神職の資格を取り、
その後、2年で資格試験が取れましたので、会社を辞めました。

会社に勤めながら、神職の資格を取るのは
大変なことのようですが、
会社の仕事と神職の勉強はまったく違うので、
仕事と勉強ともものすごく切り替えが出来るのです。

神職の資格を取れたということは、
祖先が「お前は神職をやらなくちゃだめだよ」と
言っているのかと思いました。

父は、「神職の資格を取って後をやれ」、
とは一言も言いませんでした。
ですから、私が神主の資格を取るよって言った時、
大変喜びました。

やはり、父親がやれと言ってやらされるよりも、
自分からやるのでは違うと思います。

昭和56年から父のもとで1年間、
その後平成6年まで常磐神社に奉仕いたしました。

平成6年に、鹿島神宮に奉仕することとなり、
平成17年より宮司として奉仕いたしております。
鹿島神宮にきてもう、20年になりますね。

Q7.鹿島宮司さんにとってのスターリイマンは誰ですか？

私にとってのスターリイマンは、
鹿島の大神様です。

今回の大鳥居建設に当りまして、大神様は、
境内で育った木を使いなさいと言ってくださって。

国内であれだけの鳥居は、いくらお金を出しても
出来ないというほど、素晴らしい鳥居になりました。

伐採するのも運搬するのも工事をやるのも、
本当に関係の皆様にも恵まれていました。

神様の言うとおりにやっていたら、
間違いないと思っています。

何事かあると、何かの形で
お考えをお示しいただいているように思います。

これからも鹿島の大神様のお力を示していただけるよう、
ご奉仕してまいります。

「今を生きるスターリマンの物語」

☆第8話 日本建国から受け継ぐ日本復興再生の道を支える☆

常陸一之宮鹿島神宮 宮司 鹿島則良 氏

第3章は、5月9日(金)配信予定です!

鹿島則良氏の家族の原風景は、
いかがだったでしょうか?

鹿島神宮の大神様に大和朝廷より
お仕えなさっている鹿島家。

代々、受け継がれている清い想いが、
鹿島の杜に今も尚、息づき、育まれ、
そしてこれからもずっとずっと変わることなく続き、
私たちを幸せへと導いてくださる。

本当に有り難く、尊いお役目と
心から感動と感謝でいっぱいです。

さて、今回は第8話「今を生きるスターリマンの物語」
第3章 鹿島則良氏のスターリマンに宛てた
感謝の風船レターをお送り致します。

配信は、5月9日(金)となります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

沖縄では、でいごの花が咲き始めていました。

東北や北海道では、桜の花が見頃を迎え、
ゴールデンウィークは、これからが本番ですね。

皆様はどんな連休をお過ごしでしょうか？

5月5日の子どもの日に向けて、
鯉のぼりが悠々と泳いでいます。

子供達が健やかに成長しますように。
そして、かけかえのない平和で幸せな時間が
皆様にゆっくりと流れていきますように
心から願っています。

それでは、次回のメールマガジンの発信の日は
私たちは、沖縄での朗読コンサートのために
再び出かけて参ります。

皆様、お元気で素敵な毎日をお過ごしくださいね。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～ 2014.05.09 vol.25

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆

配信停止をご希望の方は、お手数ですが
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

☆ごあいさつ☆

皆様、お変わりございませんか？
今年のゴールデンウィークは誰と、どんな風にお過ごしになったのでしょうか？

お一人お一人の心に素敵な思い出となって、
いつまでも輝いていただけたら幸せです。

さて、昨日9日にお送りするはずのメールマガジンが、
今回は一日遅くなってしまい、大変失礼致しました。

昨日から、私たちは再び沖縄に来ています。
先月28日に沖縄から帰宅した後、
一度5日に福島市へ、そしてまた沖縄へと戻ってまいりました。

今回のメインは、明日5月11日の母の日に
沖縄タイムスホールで開催する
「いつも君のそばにいるよ」の朗読音楽コンサートです。

先々月の3月9日「サンキューの日」に開催した
郡山での朗読コンサートのありがとうの感謝の気持ちが、
今回の沖縄でのコンサートへとつながりました。

本当に嬉しくて感謝でいっぱいです。
皆様、心からありがとうございます。

そんな感謝の気持ちが溢れる中、
第8話の最終章、鹿島則良氏のスターリマンへの
感謝の風船レターをお送り致します。

最後までお読み頂けましたら嬉しいです。

☆第8話 日本建国から受け継ぐ日本復興再生の道を支える☆
常陸一之宮鹿島神宮 宮司 鹿島則良 氏

第3章 ～鹿島則良氏のスターリイマンへの感謝の風船レター～

私にとっての「スターリイマン」は

私にとっての「スターリイマン」は
「武甕槌大神」すなわち「鹿島の大神」です。

私の家は「天児屋根命」に始まる
「中臣」の一族であり、
鹿島の大神の祭祀を司る家として
代々鹿島神宮に奉仕してまいりました。

戦後の一時期神社も大変な受難の時代がありました。
そのような状況の中、父は私に
「神職を継ぎなさい」と申したことはありませんでした。

私は大学を卒業すると一般の会社に就職し、
十二年間会社勤めを致しました。
その間父が入院するなど
「やはり神職の資格を取らなければ」と思い、
勤めながら資格を取得しました。

それも大神様が「社会勉強をしてこい」
とのことであったのかと思います。

古事記や日本書紀そして
常陸国風土記などを学ぶことにより、
大神様が示されることが少しは判るようになったと思います。

先の大震災において大神様が示されたことがいくつもありました。
鯨の話から始まり、千木が落ちたこと、鳥居が倒れたこと、
そして諏訪のお札が流れ着いたことなど、
神に仕える私たちがその対応を考えなければならないことでした。

震災で石造りでは日本一といわれた大鳥居が倒れてしまいました。
鳥居は大神様を守るように大の字に内側に倒れ、
悪霊の侵入を塞いでおりました。

その再建にあたり、石ではなく、
鹿島鳥居本来の「木」で再建することになり、
工事の業者に全国の材木の状況を調べさせましたが、
適当な材が見つかりませんでした。

すると大神様は「私の持っている杉の木を使え」とのことで、
境内の森を調査いたしました。
そして樹齢五百年を超える大杉を選定し、
切り出して二年乾燥、細工をして愈々竣工することになりました。

森の中で大神様に育てられた大杉が
皆様の前に素晴らしい大鳥居となってお目見えできることは
杉にとっても誇らしいことではなからうかと思えます。
これも大神様のお力であろうと思えます。

能の「常陸帯」の中で大神様は
「私はこの国が始まって以来、
長さ八尺の白い蛇になって皆のことを守っているのだ」
と申されております。

その言葉を信じこれからも大神様に喜んでいただき、
更に力を示していただけるよう。
ご奉仕いたしたく存じております。

「今を生きるスターリマンの物語」

☆第9話 献身愛で沖縄を支え続けている沖縄のマザーテレサ☆
安田 未知子 氏

第1章は、5月19日(月)配信予定です!

皆様、鹿島宮司様のスターリマンへの
感謝の風船レターはいかがでしたでしょうか?

「私はこの国が始まって以来、
長さ八尺の白い蛇になって皆のことを守っているのだ」
との鹿島の大神様のお声に導かれたように、

私たちは、2011年10月13日に
大鳥居になる大杉達に出会うことができました。

そして、「幸せをつなぐ祈りのきずな」の
絵とお話を描くことが出来ました。
私達にとってとても大切な大切な作品になりました。

これからも伝え続けて参ります。
私たちの愛する大切な「日本の原風景」を。

この国の人々が幸せになるために
守り続けて、祈り続けているすべてのスターリイマン達に心からの感謝をこめて…
スターリイマンの皆様!本当にありがとうございます!

さて、次回は第9話に入ります。
続いては、沖縄のマザーテレサと呼ばれ、
献身愛で沖縄を支え続けている慈愛の人 安田 未知子 氏です。

第1章 安田未知子氏との出会いの
配信は、5月19日(月)となります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

昨日、沖縄へ向かう飛行機の窓から、
東の空に、朝日が昇り始めました。
西の空には、星たちが輝いていました。

今日と言う日が、こうして明けながら、
新しい一日一日が始まっている…
時は一秒一秒、誰にでも、新しい時間を刻み続けている。

この自然の営みが変わることなく、
ずっと、新しい時間をつないでほしい。
移り行く美しい空の色を見つめながら思いました。

朝3時半に自宅を出て、6時半の飛行機に乗り、
9時半に那覇に到着。それから、夜宿泊場所に戻るまで、
打ち合わせやコンサートのリハーサル等、
とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

さあ、沖縄での4日間。どんな出会いが待っているのだろう。
では、皆様も素敵な一日一日をお過ごしくださいね☆

はせがわ芳見